

平成25年度  
音楽科 市教研 研究授業  
学習指導案

音楽部会研究主題「伝えよう 私の音楽 私の心」

《視点1》思いや意図を伝え合う活動の充実を図るために

- |   |      |                        |
|---|------|------------------------|
| 1 | 期日   | 平成25年6月18日             |
| 2 | 授業展開 | 14:00～14:50            |
| 3 | 展開場所 | 音楽室（3年1組）              |
| 4 | 授業者  | 三瓶尚子                   |
| 5 | 研究協議 | 15:05～16:30            |
| 6 | 題材   | 東西の音楽くらべー舞踊音楽をきっかけにしてー |
| 7 | 講師   |                        |
|   |      | 千葉市立都賀小学校 校長 澁谷 亨 先生   |
|   |      | 千葉市立磯辺中学校 校長 清水 幸子 先生  |
|   |      | 千葉市立小倉小学校 教頭 宮下 彬 先生   |

## 3年1組 音楽科学習指導案

指導者 三瓶尚子  
展開場所 音楽室

### 1 題材名 「東西の音楽くらべ」 —舞踊音楽をきっかけにして—

教材名 チャイコフスキー バレエ「くるみ割り人形」より 花のワルツ  
雅楽「春庭花」

雅楽「越天楽」  
歌舞伎舞踊「藤娘」  
八橋検校 箏曲「六段の調べ」  
天台声明  
ベートーベン 交響曲第5番ハ短調  
バレエ「くるみ割り人形」より行進曲  
ビバルディ「四季」より「春」  
グレゴリオ聖歌より

チャイコフスキー バレエ「くるみ割り人形」より  
アラビアの踊り・中国の踊り

小山清茂 管弦楽のための木挽き歌  
武満徹 ノヴェンバーステップス  
宮城道雄 春の海 尺八と箏 フルートとギター

### 2 題材について

#### (1) 題材観

本題材は、学習指導要領2・3学年の目標(3)「多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める」ことをねらっている。生徒は、文化の異なる地域の二つの音楽を比較することで共通点や相違点に気づき、それぞれの音楽の特徴を感じ取り、よさや価値を見つけていく。

比較鑑賞に思い至ったきっかけは、あるCDレンタルショップの一角に「音楽数珠つなぎ」というコーナーを見つけたからである。そこは一番左側に今流行しているアーティストのCDがあり、そのアーティストと似たような傾向・歌詞のもの、その歌手に影響を与えたアーティストのものなどが右側に3～5種類置かれていた。見知らぬアーティストのCDはめったに手に取らない。しかし、知っているアーティストに関連するものなら、内容を推し量り、少し安心して一度聞いてみようかと関心を持つ。音楽の時間に毎回色々な音楽が試聴できたら、その音楽はジャンル別や国・地域別、楽器別などの記憶の引き出しにしまわれ、消えることはないを考える。この体験は音楽を愛好する心情を育てること、音楽文化についての理解を深めることに大きく関わると考え、舞踊音楽を中心とした鑑賞の授業の題材を設定するに至った。

舞踏音楽は、音楽だけでなく、美術・舞踊・文学などを含めた総合芸術の一つである。オペラなどと違い舞踊は言語を用いないため、生徒たちは鑑賞学習において、音楽と舞踊だけに集中することができる。舞踊の振り付けやステップは音楽を視覚的に表現していて、その特徴を捉えることが容易であると思われる。音楽と舞踏との関係にも配慮しながら学習を進めさせたい。

学習を進めるにあたっては、我が国と諸外国の文化についても思いをめぐらせたいと考える。

例えば、日本人は明治の欧米化の影響から、自国の文化の良さに気づかず、外国の

作曲家や作品は知っていても日本の作品については知らないことがある。日本とヨーロッパの音楽をそれぞれ一曲ずつ聴き比べて、共通点や相違点を見出すことで、速度、拍子、旋律の特徴から生徒の理解を深めることができる。学習指導要領・ウ「我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。」とある。「音楽の多様性を理解」とは、単に多くの音楽があることを知識として得るだけではなく、人々の暮らしとともに音楽文化があり、そのことによってさまざまな特徴をもつ音楽が存在していることを理解することである。これらについて学習することで生徒は、自らの音楽に対する価値意識を広げ、人々の大類の音楽文化の豊かさに気づき、尊重する態度を養うことが出来ると考える。我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の共通点や相違点、固有性などから、音楽の多様性への理解を深めるのである。

音楽の授業を通して聴いて、観て「良かった」「つまらなかった」「こっちが好きであっちは嫌い」といった単なる感想に終わることなく、「どちらともよさがあると認め、尊重できるように関心を高め、自ら広く音楽を求めていく気持ちを持たせたい。特に本題材においては、内容の取り扱い・指導上の配慮事項にある(7)ア生徒が自己のイメージや思いを伝え合ったり、他者の意図に共感したりできるようにするなどコミュニケーションを図る指導を工夫することを具現化したい。

鑑賞ア「音楽を形づくっている要素(音色・リズム・速度・旋律・テクスチャ・強弱・形式・構成)や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠を持って批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。」に焦点を当てていきたい。

(2) 生徒の実態 (男子15名 女子13名 計28名)

3年1組は男女ともに仲がよく、会話も良くできるクラスである。

4月のアンケート結果から〈欠席2名〉

	得意	好き	普通	苦手
ギターを演奏すること	1	9	12	4
1人で歌うこと	3	11	8	4
合唱すること	4	8	12	2
リコーダーの演奏	4	3	13	6
鍵盤楽器の演奏	1	7	9	9
音楽を聴く	16	7	3	0
楽譜を読む	2	5	7	12
作曲すること	1	5	8	12
音楽家などを知ること	2	7	11	6

音楽で身につけたいこと・できるようになりたいこと

歌唱	歌唱力8 正しい音程1 中音域1 ビブラート1
器楽	器楽 1 リコーダー1 ピアノ2 ドラム1 ギター3 コード1
創作	作曲 2 メロディーに合うベースをつける1
その他	絶対音感2

鑑賞については、ほぼ毎時間5分から10分ほどの取り組みを続けてきた。(資料参照)クラシックギターからエレキギターや三味線、琵琶、箏、歌舞伎、宝塚、文楽、ヨーロッパからロシアの国々をめぐる民族音楽。毎回授業の内容や例えば同声合唱から混声合唱、男声合唱、女声合唱とういうような音楽的なつながり、関連する内容を紹介した。出来るだけ映像資料を多く取り上げ、興味深く視聴できるように配慮している。鑑賞した後は感想を書き留めさせている。音楽の速さや雰囲気、楽器演奏の技巧的なこと、歌唱では歌い方、発声方法、衣装や演出など色々な見方をする生徒が現れてい

る。その感想では楽器の音色の比較（クラシックとエレキギターの音色の違い）や、演奏形態（メロディー演奏とコード演奏の違い）など、今の自分では不可能な演奏に驚きつつも自然に以前の鑑賞のものとの比較をしている。

### （3）指導観

現在の音楽は様々な情報機器（CD・アイポッド・携帯電話・コンピュータ・など）が多くの人々が使うようになり、世界中から色々な音楽を知ることができる。生徒は自分の嗜好に合う音楽は好んで聴く。ボーカロイドの音楽は生徒の関心が高い。また、現在活躍中の音楽家、ミュージシャンだけでなく、10年前、20年前の音楽がCDやラジオ、テレビなどでも繰り返し流れ、インターネットでは現在から過去（1945年以前）のものまで古今東西情報のカオス状態である。そうであっても、生徒は自分の知っている身近な音楽ジャンルに留まっていることが多い。この状態で小中学校の音楽科教師は様々な音楽を知識として紹介し、楽しみ方やその音楽の背景となるものを伝えていくことが大切だと考えている。

同じような題材を表現したものとして、バレエ音楽「くるみ割り人形」の（ピンクの）花のワルツ、雅楽「春庭花」（桜）。花のイメージで「花のワルツ」は一人ひとりの女性のダンサーが花一輪（花の精）を表現している。春庭花は「春の到来が遅いことを（中国の）皇帝が嘆いていたときに桜の木の下でこの曲を演奏したら百花の花々が咲き始めた」という逸話がある。音楽はオーケストラと管弦。踊りは形式化され、振り付けが決まっているもの。時代が違うものの他の点では共通点が多い中で、舞踊の様子を見て比較させながら学習を進めさせたい。

それぞれについて東（日本）と西（ヨーロッパ）の地域に分けて比較する。生徒の思考を散開させないよう、発問や着眼点を工夫、付箋を使用し、【共通事項】を手がかりに共通点と相違点・特徴を見つける。まず、比較する時に最も分りやすいテンポに着目するため、導入で映像のみを鑑賞し、その違いを音で表すという創作を行う。このことによって速度の違いが明確になる。生徒が二つの舞踊について足のステップや腕の動きからまずバレエは速く、雅楽は遅いことに差をつけて演奏したら導入は達成である。バレエの3拍子に気づいたら予想以上の成果なので、他の生徒に注目させたい。その後音楽をよく聞き、共通点と相違点をさらに発見させる。発見した一つずつの内容について個人が付箋に書き、模造紙に同じ内容ごとに固めて配置すると、生徒が気づいたことが明確に分かってくる。内容は【共通事項】の言葉を使う。予想されることはまず音色で、オーケストラと雅楽の楽器の音色は明らかに違う。次に速度で、バレエは速いが雅楽は遅い。そしてリズムについて、バレエは3拍子で雅楽は2拍子または4拍子と判断する。さらに強弱ではバレエは強弱が明確で、雅楽は強さを保っていると感じ取ると考える。それから旋律ではバレエは明るく軽快、覚えやすいに対して、雅楽はゆったりとして力強く、派手で重いなどと感じ取ると考える。ここからは難易度が上がってテクスチャについては共通点としてメロディーが明確、メロディーと伴奏の役割分担に気づかせたい。形式と構成については演奏の一部しか聞かないので判断しづらいと考えている。最後に映像と音と一緒に鑑賞させてそれぞれの音楽の特徴をつかませる。そして最終的にそれは文化や歴史の違いにあることに気づかせる。個々の持つ日本とヨーロッパのイメージを膨らませて踊りに合った速度、リズムの旋律を創作させるなど、多くの生徒が享受するだけの音楽から、自発的に音楽を創造することができるような前向きな音楽活動につなげ、自分を表現する力を身につけさせたい。

今回は今まで行ってきた多種多様の音楽を紹介するだけの「10分鑑賞」から発展させ、比較鑑賞して楽しむ方法を見つけることとした。この音楽に人気が出る理由、その楽曲が長期にわたって演奏され続けてきた良さを理解するなど、比較を通じてその音楽の内容をより深く聴くことができると考えている。

#### (4) 指導の経緯

前時の授業では東西の音楽の特徴の理解を進めた。確認のために他の音楽を8曲用意し、鑑賞し、東洋のものか西洋のものかを分類した。雅楽「越天楽」とベートーベンの交響曲第5番ハ短調は、管弦とオーケストラ（器楽合奏）の比較。歌舞伎舞踊「藤娘」よりとバレエ「くるみ割り人形」よりこんぺい糖の精の踊りは舞踊音楽の比較。箏「六段の調べ」とビバルディ「四季」より「春」は弦楽器の比較。天台声明とグレゴリオ聖歌よりは声楽の比較。次に東西交流している音楽を聴く。チャイコフスキーのバレエ「くるみ割り人形」よりアラビアの踊りと中国の踊りはロシア人（ヨーロッパ音楽）の作曲家チャイコフスキーがそれぞれの国へは行ってはいないが、聴いた知識から（アジア地域）をイメージして作ったバレエ音楽。宮城道雄の「春の海」では、尺八と箏の演奏とフルートとギターの演奏を聴いて比較し、音色やハーモニーの共通点と相違点を再び考えたい。小山清茂の「管弦楽のための木挽き歌」と武満徹の「ノヴェンバーステップス」は日本の伝統的な歌や曲の構成を取り入れて作曲され、オーケストラと日本の伝統的な楽器とともに演奏したものである。（段落をどこかで区切らないと長いです）

色々な方法で音楽が東西交流・融合していることに気づかせるために、3つのことに重点を置く。まず、ひとつめは様々な地域の音楽が交流し、融合していくことで、新しい音楽を作り出して行く発展とは逆に、それぞれの地域特有の伝統的な音楽の味わいが薄れてしまうという保守的な見解もあること。ふたつめにはお互いの地域特有の音楽を受け入れ、楽器や音階などを素材とし、自分達流のリズムなどにアレンジすることで、理解、調和に繋がること。三つ目には科学や産業の発達によって世界中の地域交流が容易になったことである。現在では、インターネットなどの情報機器で一日中世界中がつながっている。それを活かして、音楽だけでなく様々な芸術の文化交流が多くの人々によって行われていること。生徒が未来を生きて行くために、国際理解まで触れることを促したい。

### 3 題材の目標

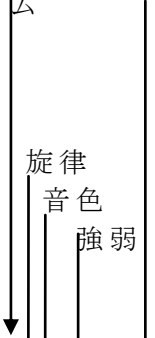
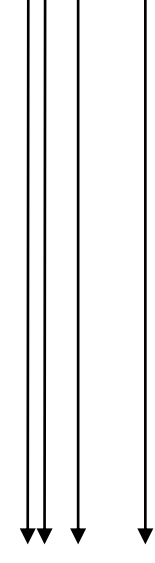
多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高めるために、文化の異なる地域、東（日本）と西（ヨーロッパ）の二つの音楽をグループやクラスで比較し、共通点や相違点に気づき、それぞれの音楽の特徴を感じ取り、よさや価値を見つける。次に東西の文化が混ざった作品に触れ、音楽的な文化交流に気づく。

### 4 題材の評価規準

	音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
学習活動における具体的な評価規準	①二つの舞踊にふさわしい速度・拍子に合う旋律を想像し、キーボードで表現する  ②鑑賞しながら自分なりのイメージを持とうとし、複数の音楽を比較することや東西の音楽交流を見つける学習活動に意欲的である。	①日本とヨーロッパの音楽の特徴を理解しながら、よさを味わって鑑賞し、比較したことを「コンサートのお知らせ」に書く。  ②音楽を聞いて比較し、東西の特徴を感じ取りながら曲を分類したり融合を見つけたりする。

<p>〈C〉と判断される状況への働きかけ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体をTV画面へ向けさせる教室環境にし、言葉と表示で指示を明確にする。</li> <li>・どんな点に注目して映像を見るか指示をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの舞踊について、優劣や好き嫌いを決めるのではなく、東西の文化背景の違いからくる音楽文化の違いを理解させるような声かけをする。</li> <li>・【共通事項】を手がかりのキーワードとして与え、特徴を捉えやすくする。</li> </ul>
<p>〈A〉と判断するキーワード</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで話し合いをし、グループをまとめようとするような発言をしている。</li> <li>・熱心に映像を視聴している。</li> <li>・舞踊にふさわしい音楽の特徴を言葉や音に表現するために色々試行している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本・ヨーロッパ、どちらの舞踊音楽も特徴やよさを感じ取って発言したりワークシート・「コンサートのお知らせ」に書いたりしている。</li> </ul>

5 題材の指導計画及び評価計画（2時間扱い）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	学習活動における 具体的評価規準	共通事項
1次	1時 ・ 本時	<p>○AとBのふたつの舞踊音楽を比較して、東（日本）と西（ヨーロッパ）のもつ音楽的な特徴をとらえよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AとBの舞踊音楽を音楽がない状態で視聴して、この踊りにどんな音楽が合うのか速度・旋律から考えてキーボードで創作し、発表し合う。</li> <li>・2つの音楽だけを聴き、共通点や相違点をグループごとに発表しあい、東西の音楽について理解を深める。</li> <li>・2つの舞踊を音楽と共に視聴し、それぞれの音楽について特徴をまとめる。</li> </ul>	<p>(関①) (鑑①)</p>	<p>速度・リズム</p> 
2次	2時	<p>○東（日本）と西（ヨーロッパ）の音楽が交流し、融合している様子を鑑賞しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8曲を順に聴き、グループで東西どちらの音楽か分類し、前回の復習をかねながら、何の特徴が判断の基準になったかを確認、東の特徴と西の特徴を把握する。</li> <li>・チャイコフスキー バレエ「くるみ割り人形」より アラビアの踊り・中国の踊り 小山清茂 管弦楽のための木挽き歌 武満徹 ノヴェンバーステップス 宮城道雄 春の海 尺八と箏 フルートとギター</li> </ul> <p>を聴き、東西それぞれのどの部分が融合してできているのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ融合すると良いことがあるのか、心配する点はなにか考える。</li> </ul>	<p>(関②) (鑑②)</p>	

6 本時の学習（1/2）

（1）本時の目標

AとBのふたつの舞踊音楽を比較して、東（日本の雅楽）と西（ヨーロッパのバレエ音楽）のもつ音楽的な特徴をとらえる。

（2）「視点」とのかかわり 視点1 思いや意図を伝え合う活動の充実を図るために

①音楽のない踊りを鑑賞して、それぞれに合う旋律を創作し、各々のグループの思いや意図を音で表現する。

②その後、グループは【共通事項】を手がかりにそれぞれの舞踊音楽の共通点や相違点をつかみ、話し合いをワークシートと付箋の使用で明確にまとめる。教師は発問や支援を工夫して、生徒の発表を支援する。生徒一人ひとりそれぞれの音楽の特徴について理解し、自分なりの言葉でそれぞれの曲のよさを発表できる。

（3）展開

学習内容と学習活動	教師のかかわり □評価の方法	備考
1 生徒の楽音であいさつをする。	・授業の始まりとして楽音に合わせてあいさつする。	ピアノ
舞踊音楽－東西交流－AとBの二つの舞踊音楽を比較して、(○○○)と(△△△)のもつ音楽的な特徴をとらえよう。(生徒に地域はまだ知らせない)		
2 修学旅行班に分かれて着席する。	・生徒一人ひとりのTV画面が見やすいよう配慮する。	
3 AB二つの踊りを音のない状態で一度だけ見て、この舞踊はどんな音楽なのか想像し、班ごとにキーボードのファ#ソ#ラ#を使って旋律を作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2分間で2つのメロディーを作るので、残り時間を生徒に知らせる。</li> <li>・3つの音だけを使っていることを確認する。</li> <li>・速度とリズムについて考えさせる。</li> </ul> ☆速度・リズム 関①自分が映像を見て感じ取った思いや意図を伝え合いながら創作しているかどうか観察する。	ワークシート キーボード  視点①
4 班の順にABの2曲を発表する。どちらを先に演奏しても良いとし、2曲演奏して他の人たちにどちらがAでBなのか当てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の判断が全員一致に一番近かった班をほめる。</li> <li>・一番分かりやすかった班の音楽は、なぜ分かりやすかったのか他の班の生徒に理由を発表させる。</li> </ul>	ワークシート キーボード
5 音楽だけを何度か聴き、生徒に3色の付箋を配り、AB二つの曲の共通点、相違点、特徴についてポイントをおさえて書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・速度・音色・リズム・旋律・強弱などに気をつけさせて書かせる。</li> <li>・どんな○○なのかを書くようにさせる。(例 力強い音色 軽快なリズム 等)</li> </ul> ☆速度・旋律・音色・リズム・強弱	ワークシート 班で一枚

<p>6 各班は大きな「まとめのシート」に班員の書いた付箋を項目ごとに並べて、もう一度音楽を聞いて話し合い、各項目について班の意見をまとめる。</p> <p>7 他の班のまとめシートを見合い、その後ホワイトボードに並べて貼ってまとめを聞き、AとBの音楽の共通点・相違点が明確に分かる。</p> <p>8 AとBの舞踊の解説資料を読みながら映像と音楽がある状態で視聴し、Aは雅楽「春庭花」、Bはバレエ「くるみ割り人形」の花のワルツであることを知る。</p>	<p>鑑① それぞれの舞踊音楽の共通点や相違点をつかみ、話し合いをワークシートと付箋の使用で明確にまとめる生徒が鑑賞する様子を観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな「まとめのシート」を各班に配る</li> <li>・生徒が各項目について付箋を並べ終わったら、もう一度音楽を流して各項目について確かめさせる。</li> <li>・班長は各項目について班の意見を一言にまとめさせる。</li> <li>・マジックで一言を書かせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の班のまとめシートを左隣に順に回して、どんなことが書いてあるのか確かめさせる。</li> <li>・ホワイトボードにまとめシートを並べて貼り、AとBの音楽の共通点・相違点を確認させる。</li> </ul> <p>☆速度・旋律・音色・リズム・強弱・テクスチャ・形式・構成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AとBの音楽の解説資料を配付して読ませる。</li> <li>・AとBを視聴させる。</li> </ul>	<p>視点②</p> <p>まとめのシート</p> <p>解説資料</p>
<p>9 2つの音楽についてキャッチコピーを考え、「コンサートのお知らせ」を書いて提出する。</p> <p>10 生徒の楽音であいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめシートや解説資料をもとに書かせる。(例 強く凛と響き渡るメロディーと力強いステップ【春庭花】)</li> </ul> <p>☆速度・旋律・音色・リズム・強弱・テクスチャ・形式・構成</p> <p>鑑②作成したコンサートのお知らせを授業後に読み評価する</p> <p>楽音に合わせてあいさつをさせる。</p>	<p>コンサートのお知らせシート</p> <p>ピアノ</p>

#### (4) 評価

雅楽「春庭花」とバレエ「くるみ割り人形」の花のワルツのふたつの舞踊音楽を比較して、東（日本の雅楽）と西（ヨーロッパのバレエ）のもつ音楽的な特徴をとらえることができたか。